

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(総務常任委員会) 市役所のこれからのカタチを考える ～デジタル社会における市民にとっての利便性と課題～			
開催日時	令和5年 10月 19日 14時00分 ～ 15時30分			
開催場所	多治見市役所本庁舎5階全員協議会室			
出席議員	挨拶	柴田 雅也	説明者	城處 裕二
	司会者	三輪 寿子		
	対話議員	Aグループ：成田康弘、石田浩司		
		Bグループ：葉狩拓也、寺島芳枝		
		Cグループ：獅子野真人、城處裕二		
		サポート：亀井芳樹、黒川昭治、嶋内九一		
記録者	Aグループ：井上あけみ、Bグループ：三輪寿子、Cグループ：林美行			
参加人数	合 計 14人			
報告内容	【Aグループ】 ○課題 ・スマホの使用方法がわからない高齢者はどうすればいいのか。 ・デジタル化に疎い高齢者、年金生活者に情報が届くためにどうすればいいか。 ・Wi-Fi環境の整備にもお金がかかる。年金生活者の場合、余裕がなく情報弱者に対する行政からの補助が必要だ。(Wi-Fi設置補助含む) ○サポートについて ・スマホを使える環境さえ整えばいくらでも利用できる。 ・レベルに合わせたサポートが必要だ。行政が主催する出前講座など丁寧な対応が必要になる。 ・三田市では、地域単位で教室など何回も開かれ、密な単位でデジタル庁舎実現への努力がされていた。 ・サポートさえあればできるはず。 ○今後について ・どういう市役所にしたらいいのか？声を出して欲しい。 具体的にどういう市役所にしたいのかという議論まで進まず、デジタル環境を整えるにはという議論にとどまったように感じた。 【Bグループ】 ○課題 ・デジタル化についてわからない。 ・高齢者に対するパソコン、スマホ等の情報発信をしているか。受け手の現状調査をすべきである。 ・ガラケーに替えた人が増えている。QRコードを読み取ってやれと言われても無理。 (※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。) ・デジタル社会と言うが、現実との乖離がある。 ・情報化社会に対する使い勝手、使えるシステム構築が必要。			

- ・マイナンバーのトラブル、金融機関のビッグデータトラブルで2日間システムが止まり、利用不可となったという事実がある。
- ・国保データの流出等、人がデータを漏らし、データを壊す。
- ・人財育成や教育をしないと市役所も機能しなくなる懸念がある。
- ・地区事務所へマイナンバーカードを持って行ったが、手書きでの手続きが必要であった。
- ・根本町では、デジタル回覧板を試行しているが、スマホを使える人が増えないと難しい。

○サポートについて

- ・団塊世代向けの市役所窓口を創設して欲しい。
- ・広報たじみにスマホ講座の募集記事があったが、1回限りでなく複数回開催して欲しい。

○その他

- ・スマホを持たない人は、緊急時の情報を得ることが難しい。防災無線も聞き取りづらい。豊田市は5年前、防災ラジオを3,000円で配付している。多治見市は、防災行政無線個別受信機の補助はあるが、自己負担額が高い。補助額を検討して欲しい。

○まとめ

高齢者は、デジタル社会変革の波についていけない。スマホやパソコンの操作が上達するまで行政が指導すべきである。本市の人口でどれだけの人々がスマホ等を持っているか分析し、行政としてどう対応するのが課題である。

【Cグループ】

○課題

- ・基本的なこととして、誰もが使いこなせる環境づくり。
- ・デジタルディバイド（情報格差）対応が必要。町を挙げて、誰もがスマホ等情報機器を使えるようになるための学習機会の徹底的な充実が急がれる。
- ・有志では、スマホを活用するための学習会が持たれているが、徹底的な対応が必要。
- ・公民館など必要な場所にWi-Fiが整備されていない。

○行政に対する意見

- ・行政事務、行政サービスのICT化が進んでいないのではないかと。（住民異動届時にあちこち回らなければならないし、同じことを何度も書かなければならない。こういうことの解決ができるのでは。）
- ・高齢化が進む中、行政手続きを自宅からでもできるようにすることや、福祉の相談業務を地区事務所で取り扱えるよう対応すべきではないか。

○その他

- ・今回の説明も知識のない人にはわかりにくい。市民の日常の状態を想像した上での説明が必要ではないか。

○まとめ

行政として行政事務をどのようにしていくか。行政サービスをどのようにしていくかという視点も緊急の課題であるとともに、一人一人の市民が置いて行かれないようにするための取組も喫緊の課題であるという指摘がなされた。

多治見市議会議長 柴田雅也 様
上記のとおり報告します。

令和5年10月19日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(総務常任委員会) 市役所のこれからのカタチを考える ～デジタル社会における市民にとっての利便性と課題～			
開催日時	令和5年 10月 23日 19時00分 ～ 20時30分			
開催場所	多治見市役所駅北庁舎 4階大ホール			
出席議員	挨拶	柴田 雅也	説明者	城處 裕二
	司会者	三輪 寿子		
	対話議員	獅子野真人、葉狩拓也、成田康弘、城處裕二、寺島芳枝、柴田雅也、石田浩司		
		サポート：井上あけみ		
	記録者	黒川昭治		
参加人数	合 計 3人			
報告内容	○参加者からの意見 ・ デジタル化は必須。敬遠しがちな高齢者ほど必要と考える。家庭でWi-Fi環境が整備できないことを問題とする人がいるが、やる気の問題。とはいえ、お金をかけることを好まない人はいる。 ・ 公民館等の市の施設にフリーWi-Fiを導入してほしい。 ・ 国のインフラ整備や教育ができていないがためにデジタル化が遅れている。市がやることは、国が動き出したときに、遅れないように準備が必要。そのためには、できない理由を市民から吸い上げ、明確にし、解決しておく。また、基盤を作る。住民を招いた座談会を開いてほしい。とにかくペーパーレスにする。中には必要な書類があったり、障がいがあったりして対応できない人もあるが、90%は可能と考える。 ・ 今回の説明はやや高度で、もう少し足元の話をしていないと引いてしまう。住民でパソコンやスマートフォンが苦手な人の能力を引き上げ、情報格差を埋める必要がある。 ・ 市内にいる人は多治見市民だけとは限らないため、近隣都市との連携・情報共有する必要がある。高齢化した社会には他市との協力が必要。特に災害時に必要となる。理想論なのかもしれないが、市の枠は超えるべき。 ・ コロナ禍のため、業務に関する講習をオンラインで行ったが、参加者は3割程度だった。岐阜市でも4割程度であり、人がデジタル化に追いついていない。やれないだけでなく、不備が多くて受け入れたくないこともある。 ○まとめ ・ デジタル化は、早急に国が基盤をつくり、各市が乗れば横もつながる。国が動いたときに多治見市が遅れることなく対応できる準備をしておく。 ・ 市民一人一人が、利用できるスキルを身につけるための支援を行う。 ・ 市の公共施設に無料で使用できるWi-Fi環境を整える。			

多治見市議会議長 柴田雅也 様
上記のとおり報告します。

令和5年10月23日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(経済建設常任委員会) 公共交通について			
開催日時	令和5年 10月 19日 19時00分 ～ 20時30分			
開催場所	多治見市役所駅北庁舎 4階大ホール			
出席議員	挨拶	柴田 雅也	説明者	玉置 真一
	司会者	三輪 寿子		
	対話議員	【Aグループ】葉狩拓也、林 美行、仙石三喜男		
		【Bグループ】黒川昭治、若尾敏之		
	記録者	サポート：獅子野真人、亀井芳樹		
	Aグループ：井上あけみ、Bグループ：寺島芳枝			
参加人数	合 計 9人			
報告内容	【Aグループ】 ○市に対する意見・課題 ・多治見市の公共交通に費やす予算に約 8,000 万円という金額は少ないのではないかな。 ・あいのりタクシーは実現までのハードルが高すぎる。実現に3年もかかった。 ・多治見市は地域公共交通会議の議事録が情報公開されておらず、不信感がある。地域にはバス停もない。 ・多治見市には、公共交通について調査分析し、予算も増やし市民の利便性を図って欲しい。免許証を返納すれば、こういう場（対話集会）にも参加できない。 ・ききょうバスについてもバス停まで歩いていくのが高齢のため負担になっている。 ・大正町という街中の地域でも、他の地域に行くことができない。町なかの公共交通がない。 ○東濃鉄道株式会社社員さんの意見 ・路線バスを利用するお客様が減り、赤字になっている。観光バスで成り立っている。恵那でもバスやハイエースを使って営業しているが、お客様は増えない。 ○まとめ 参加者のほとんどが市の公共交通政策について、危機感を募らせておられるのが伝わってきました。喫緊の課題です。 【Bグループ】 ○公共交通を利用して困った点 ・土日の最終バスの時間が早い。 ・路線バスが1時間に1本になってしまった。（多治見駅から）徒歩圏内だからよいが。 ・美坂地域は路線バスの本数も多く、恵まれている（土日もセラミックパークMINO行きやききょうバスが運行）地域であるが、バス停までの距離、バス停の位置（バスポケットがない）等で高齢者には乗りにくくなっている現状がある。あいのりタクシーやAIよぶくるバスのような、ドア・ツー・ドアの交通システムが必要になってくるのではないかな。（バス停までの移動を考える時期） ○公共交通について改善点は？ ・ICカードの活用ができないのか。 →（東濃鉄道株式会社社員さんの意見）			

	運賃箱やデーターセンターの設置などに莫大な経費がかかる。現在は、現金か回数券のみの取扱いである。 ききょうバス利用者は多いが、それでも収益につながっていない。 補助金は赤字の補填であるため、利益は少ない。 ○その他 東濃鉄道株式会社の社員さんが参加されていたため、運転手の人員不足等の課題についてのお話をいただいた。
--	---

多治見市議会議長 柴田雅也 様
上記のとおり報告します。

令和5年10月19日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(経済建設常任委員会) 公共交通について			
開催日時	令和5年 10月 27日 14時00分 ～ 15時30分			
開催場所	多治見市役所駅北庁舎 4階大ホール			
出席議員	挨拶	柴田 雅也	説明者	玉置 真一
	司会者	三輪 寿子		
	対話議員	【Aグループ】林 美行、仙石三喜男		
		【Bグループ】黒川昭治、若尾敏之		
		【Cグループ】片山竜美、吉田企貴		
		サポート：井上あけみ、石田浩司、嶋内九一		
記録者	Aグループ：亀井芳樹、Bグループ：獅子野真人、Cグループ：寺島芳枝			
参加人数	合 計 15 人			
報告内容	【Aグループ】 ○公共交通への思い、まちづくりについて ・コミュニティ移動の研究や介護保険を使ったカートの利用を進めたい。 ・ラウンドアバウトについて異論がある。 ・彦根市を参考にしたコンパクトシティを多治見市でも導入したい。 ○多治見市の公共交通で困っていること ・あいのりタクシーについて→14 地点のみ。乗車率も 1.5 人／台のため、今後も補助を続けるのか、なくしてしまうのか。 ・市之倉で免許証を返納した方が、買い物難民になっている。歩いて行ったが、側溝の蓋がなかったため、落ちてケガをした。 ・介護タクシー、福祉タクシーについては、チケットなどで一部補助がある。 ・バス停の乗り場が危ない。 ○提案 ・ライドシェアの推進はどうか。高齢者の働き先としても活用できる。 ・高齢者電動カートを確保することもある必要ではないか。 →レンタルも可能であり、安価に済むかもしれない。市が補助することはできないか。 玄関に入れない家もある。玄関の改築、スロープ、手すりの設置が必要になる。 ・レンタサイクルが広がれば渋滞解消につながるのではないか。 ・まち全体の構造を見直す時期ではないのか。 ○その他 ・タクシー業界の今後はどうか (現役タクシードライバーさんからのご意見) おもてなしの精神を大事にしているため、そこを差別化の手法としていきたい。A I に負けないサービスを続けたい。 ・福祉タクシーは、介護福祉士の資格がないと運転できない。普通のタクシーのオプションでも可能。 ・「すべての方に交通を」というのは難しい。 ・公共交通機関に 100%依存も難しい。			

- ・働く場所がないとこのままでは、子どもたちは市外に出て行ってしまう。
- ・何にせよ予算が必要なため、まずは歳入を増やすことが重要
- ・多治見市の道路は他市と比べてボコボコで走りづらい。
- ・議員は長期的視点が必要である。

【Bグループ】

○まとめ

バスが徐々に減便していることや、タクシーの予約が取れないなど現状を踏まえ、公共交通を充実させてもらいたいというのが参加者全員の共通意見でもあった。また、そのために多少の税金を投入すべきという意見もあった。

ききょうバスについては、中心市街地しか走っていないため、市民の利便性に差があることに対する是正や、渋滞スポットを避けるために運行ルートの見直しを求める意見があった。

その他の意見として、多治見まつりなどのイベントの際は、市内巡回バスを運行すると観光につながるのではないか、スムーズに移動できるような道路環境の整備が必要ではないか、バスは不便なものという認識を変えるような取組を行う必要があるのではないかなどの意見があった。

【Cグループ】

○意見

- ・自動運転について現況は信号機がネックとなっている。色は識別できるが、矢印が判断できない。現在は、東京都大田区の羽田イノベーションシティでの自動運転がレベル4で高い。一般道は危険が多い。
- ・買い物に行くのも大事だが、市が中心となり、移動販売車を地域に呼ぶのも方法ではないか。(現在2社で実施中)
- ・下沢町在住の方が自治会の役員をやる度に、「滝呂台にはバスが多く走るようになったが、下沢を通らない。朝の運行時刻が遅くなり、学生が間に合わなくなり困っている」など話題になるが、そのままになっている。
→5人以上集まれば、あいのりタクシーの利用の説明に都市政策課の担当者に来てもらえるので、まず説明をお聞きすることから始めてはと提案。
- ・交通手段の確保は人権問題と捉える。地域による格差を生むべきではない。みんなの問題と捉えて、市がある程度の負担をして公共交通を無料で運行すべきではないか。そういうことも含めて今から議論して備える時ではない。
(東濃鉄道株式会社社員さんからの意見)
- ・各公共交通機関が協力して、考えていくことが人手不足の課題解決に必要なではないか。
恵那市は、大型バスをやめ、車両を大型ワゴン車にし、循環で1時間に1本の対応を実施している。

多治見市議会議長 柴田雅也 様
上記のとおり報告します。

令和5年10月27日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(厚生環境教育常任委員会) すべての子どもに学びの居場所を ～これからの不登校支援のあり方～			
開催日時	令和5年 10月 23日 14時00分 ～ 15時30分			
開催場所	多治見市役所駅北庁舎 4階大ホール			
出席議員	挨拶	柴田 雅也	説明者	片山 竜美
	司会者	三輪 寿子		
	対話議員	【Aグループ】 亀井芳樹、井上あけみ		
		【Bグループ】 三輪寿子、城處裕二		
		【Cグループ】 玉置真一、奥村孝宏		
		【Dグループ】 加藤智章、嶋内九一		
	サポート：獅子野真人、黒川昭治、仙石三喜男、葉狩拓也			
記録者	Aグループ：林 美行、Bグループ：石田浩司、Cグループ：成田康弘、 Dグループ：寺島芳枝			
参加人数	合 計 29 人			
報告内容	【Aグループ】 ○不登校児童・生徒への理解について ・保護者や児童・生徒を責める空気があるのではないかな。責めないような環境が必要。 ・不登校は病気ではない、子どもたちは一人一人事情が異なる。 ・保護者も事情が十分に理解できにくい。情報が届いていないし、いざそうなったらどうするか考えておくことが難しい。 ・アドバイスできる人が身近で対応できるようにすることが大切。 ○課題及び提案 ・相談員の役割が大きい。そのためには、市がしっかりとした考え方を持つことが必要。 ・不登校という言葉が分断されていると感じるので、言葉を変えられないのか。 ・社会的に考えることが必要であるが、社会は無関心であり、学校の対応もさまざまである。 ・さわらび学級の現状は、親が送迎時間を調整できない、通う子どもも少ない。どう考えるべきか。 ・地域の学校という視点を持って、地域住民がサポートできるとよい。 また、最近、映画（みんなの学校）の上映が行われたが、大阪市の学校のような取組を行ってはどうか。 ・すべての子どもに学びの場をという視点で、自主性、社会性、学力を育める分教室や、フリースクールは考えられないだろうか。先輩の話が聞けたり、大人と触れ合えたりできるとよい。 【Bグループ】 ○支援体制についての課題 ・支援体制が小学校・中学校で差が大きい。 ・子どもに合わせた対応が必要。子どもが発しているサインを把握した方がいいのでは。 ・オンライン授業の弊害、実体験の場が必要。コミュニケーション不足。			

- ・発達障がいではないが、発達障がいの可能性がある程度の場合は、支援をしてもらえない。
- ・不登校児童・生徒が増えてきているため、一人一人の対応ができていない学校がある。(教員の数・ききょうスタッフも足りない)
- ・学校・地域・家庭のネットワーク不足
- ・子どもの学ぶ権利。楽しい学校にしていくなために先生の負担が多すぎ。先生不足
- ・学習が主体の教育現場では、さらに生きづらい子どもが増えているのではないか。
- ・未就学児の療育支援における親への支援もあるが、経済的に厳しい家庭には親の負担が大きい。
- ・重度な引きこもり状態においては、働きかけに難しさがある。
- ・家庭の事情により、子の一般的な生活リズムを管理できない。
- ・親への対応、理解、支えが必要である。
- ・医療につながりにくい。
- ・両親の考え方の違いにより、支援の方針が立てにくい。
- ・児童・生徒の思いや考え方などを理解できる大人が少ない。

○提案・要望等

- ・授業についていけない子どもの補習があるとよい。
- ・さわらび学級に誰もが平等に通えるようにスクールバスがあるとよい。
- ・義務教育6・3枠を超えた教育の場が必要。
- ・学校に居場所があることも大事だが、学校の外にもあるとよいのではないか。
- ・子どもの権利条例が制定されて20年。教育にもっと予算をつけてほしい。
- ・様々な状態を長期的に支援、相談、対応できる場が欲しい。
- ・中学校以降の切れ目のない支援はどうなっているのか。
- ・18歳以上の居場所や支援があまりないような気がする。
- ・不登校児童・生徒にお弁当(給食)の配付があるとよい。
- ・多治見市民病院で児童精神科医療を受けられるようにしてほしい。

○その他

- ・コロナ禍の2～3年で子どもたちの人間関係がさらに希薄になった。異学年交流が減少し、身体能力も低下している。
- ・不登校による食費、水道代、電気代など経済的な負担がある。

【Cグループ】

○要望・課題等

- ・カウンセラー、発達障がいを診察する専門医が少ない。
- ・居場所、学ぶ場所がない。(さわらび学級への登校は困難)
- ・時間と経済的に負担が大きい。
- ・学校に行けない雰囲気がある。
- ・さわらび学級は送迎がない、時間が短い。(10時～14時半)
- ・スペシャルルームではなく、ナチュラルルームにすべき。
- ・安全に受け入れられる環境を整える。→市、学校への要望
- ・学校選びの選択肢がない。(越境が不可)
- ・ボランティア(近所の方など)の力が必要
- ・テレビでもよく見るが、問題があっても公にしない体質に問題がある。
- ・先生たちには、もう少し一人一人の生徒に寄り添って欲しい。

- ・親は自分を責めないで欲しい。行政が守ってほしい。
- ・子ども食堂を利用（活用）して、居場所にしてほしい。

○まとめ

- ・うまくいっていない子どもに選択肢を増やし、地域の人財を活用すること。
- ・子どもの心の支援を充実させる。（カウンセラー、近所のおばさん）
- ・経済的支援も考えて欲しい。

【Dグループ】

○行政に対して

- ・不登校が増加しているが、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど専門職が少ないのではないかと。増員が無理でも訪問回数を増やして欲しい。
- ・小中学校に地域の私たちが出向くためには、それなりの知識が必要になる。各校区で勉強会を開いて欲しい。
- ・フリースクールは、今は不登校児童・生徒の居場所の一つである。フリースクールに登校すれば、出席扱いにしてはどうか。
- ・どこに住んでいても子どもたちが気軽に利用できる居場所を！
- ・精神的な問題、A S D（自閉症スペクトラム症）について理解が進むとよい。

○学校に対して

- ・学校外で気軽に行ける居場所はあるか。
- ・スクールカーストについて、学校は把握しているのか。
- ・相談室は学校内なので、登校扱いになると思うが、学校以外の施設で学習した場合でも出席扱いになれば、子どもたちの心理的な負担も少なくなるのではないかと。
- ・発達障がい児をもつ親だが、不登校のことを不登校でない子どもや親たちに知ってもらう機会を学校で作って欲しい。
- ・小学校が3つの中学校に分かれるため、仲のよい子と離れてしまったり、窮屈な決まり（登校したら体操服で、下校時には学生服に着替えるなど）で不登校になり、さわらび学級に通う中で、友人ができ自信が持てるようになり社会人になった。その当時は、さわらび学級がまちの中心地にあり、自転車で通ったが、今は遠い場所に移転になったため、通うのに大変ではないか。送迎できる親ばかりではない。

○地域での取組について

- ・笠原児童館では、夏休みの間、交流センターでクーラーの効いた部屋で学習部屋を作った。王将とのコラボでお弁当を4回無料でいただいた。黙って見守るだけだが、子どもたちの居場所になり、よかったと思う。小学校との連携により、地域の人を招いて交流する機会を作り、よい関係が保たれている。
- ・学びの情報を共有したい。

○まとめ

発達障がいや不登校について、親や地域の大人が共に学び、理解の輪を広げ、様々な居場所を子どもたちに！！

多治見市議会議員 柴田雅也 様
上記のとおり報告します。

令和5年10月23日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子

市民と議会との対話集会報告書

テーマ	(厚生環境教育常任委員会) すべての子どもに学びの居場所を ～これからの不登校支援のあり方～			
開催日時	令和5年 10月 27日 19時00分 ～ 20時30分			
開催場所	多治見市産業文化センター 3階中会議室			
出席議員	挨拶	柴田 雅也	説明者	片山 竜美
	司会者	三輪 寿子		
	対話議員	【Aグループ】 亀井芳樹、井上あけみ		
		【Bグループ】 加藤智章、城處裕二、三輪寿子		
		【Cグループ】 玉置真一、奥村孝宏		
		サポート：葉狩拓也、若尾敏之、石田浩司		
記録者	Aグループ：林 美行、Bグループ：獅子野真人、Cグループ：黒川昭治			
参加人数	合 計 17人			
報告内容	【Aグループ】 ○意見 ・子どもの様子を見ていて、子どもは力があって環境があれば伸びていく。発達にはデコボコがある。先生も見立てができなければ指導ができない。このため、まず親が安心できるような、親も子どもも気軽に相談できる場所が必要。(ほほえみ相談員の経験者から) ・クラス単位の人数が少ないといい。先生の負担を減らすことができないか。 ・お山の大将が生まれると、残された子がいじめにあいやすい。 ・子ども向けの心療内科がほしい。 ・発達障がいについて知らない人が多い。 ・点数での評価はやめられないのか。 ・今の子は、枠にはまった子が増えている。ノーチャーム、ノー制服というように個性をつぶさないような教育が必要ではないのか。 ・外遊びができなくなっているところにも原因があるのではないか。 ・野外活動に改善効果があるのではないか。 ・なぜ不登校になったかを専門家を交えて話し合い、一人一人に合う回答を見つける仕組みが必要。 ・ICT＝オンライン授業はある意味、画期的。東京シューレ学園という不登校特例校の事例に注目。 ○まとめ PTA、市職員、専門分野の人たちで話し合い、今できる事をやっていくという取組が必要ではないか。 【Bグループ】 ○まとめ 要望として、多治見市民病院に小児精神科医がいなかったため、配置を求める意見があった。理由は、保護者に頼る先がないことや、療育をしていく上で方針が合っているのか手探りの状態で困っているなどであった。 また、支援がほしいという意見もあった。オルタナティブスクール※にお金がかかること			

や、フォローが必要な生徒にかかわる時間が教師にないこと、障がいをもつ子どもや親同士のコミュニケーションの場づくりが欲しいなど多岐にわたる。

※オルタナティブスクール…現在の公教育（公立学校や私立学校）とは異なる独自の教育理念、方針により運営されている学校の総称

【Cグループ】

○意見

- ・不登校の子どもは、負い目があり、相談相手が誰でもよいわけではない。
- ・大人がアンテナを張っていないと、情報が取れない。
- ・子どもは子どもの中で育つ。
- ・学びの場所は学校だけではないので、与えられた場所以外でも、子どもが選べるようにしたい。好きな学び方を自ら選ぶ。
- ・不登校の子どもに義務教育後の在り方を教える機関がない。
- ・情報不足で相談先がない。あってもわからない。
- ・不登校が悪いことのように扱う社会がよくない。
- ・教員の教育が必要ではないか。
- ・「不登校」という言葉自体がおかしい。学校に子どもを合わせることが問題。ゆえにフリースクールを選択する保護者が多い。
- ・子どもが苦しんでいることを大人が知る必要がある。これが不十分なので、自殺する子どもが多い。もっと現場を見て欲しい！支援して欲しい！
- ・不登校は悪いことではない。
- ・不登校になる原因が個々に違い、多すぎてつかめない。
- ・個々に得意・不得意があり、それが義務教育の科目ではない場合もある。それを伸ばす、個性を伸ばすことが大事。
- ・得意分野を伸ばす学びの場が必要。
- ・コミュニケーションを取る場所がないのではないか。例えば、仲よくけんかすることもよい。
- ・「普通」から外れて不安になる。
- ・「個性を尊重」というが、それが学校の目標にそぐわない。学校の枠から外れてしまって矛盾が生じる。

○まとめ

- ・そもそも不登校としてしまうことがよくない。学校の枠に当てはまらないだけ。通常の学校に合わないのであれば、違う場所で好きな分野を学べる場所を提供してあげる。それは個々に違う。
- ・子どもは自ら悩みを発することができない。大人はアンテナを張って子どもの悩みを酌み取ってあげるべき。受け取った大人が対処できるように、情報を入手したり交換したりする場所があるが、それが分かる仕組みになっていないようだ。
- ・「子どもが自ら命を絶つ」ことを防ぐことに勝るものは何一つない！

多治見市議会議員 柴田雅也 様
上記のとおり報告します。

令和5年10月27日

広報広聴研究会 会長 三輪 寿子